マネジメントコース研修生のつぶやき

編集者注：このコンテンツは、マネジメントコース(※)の研修生が持ち回りで担当し、それぞれの所感等を述べたものです。

※　自治大学校における一年間の研修であり、研修期間中の概ね半分は自治大学校における実務に参画し、もう半分は通常の研修(第１部課程等)を履修することにより、実践的に高度の政策形成能力及び行政管理能力の向上を図るもの。

執筆時点では、２月。今年度４月に派遣されてからあっという間に時が過ぎ、気づけば残り２か月となりました。

思い返せば、今年度赴任後まもなく、また、現在も新型コロナウイルスに係る緊急事態宣言が発令されており、イレギュラーな１年となりました。

そのような中で、約４か月間の研修を受講することができ、そして、第１部課程第 135 期の担当として研修を運営することができ、非常に貴重な経験を積ませていただいたと思っております。それぞれの所感を述べたいと思います。

まず、第１部課程第 134 期研修生として受講した所感ですが、当該期はコロナの影響があり、通常よりずっと少ない 30 名の参加となりました。より多くの研修生との交流を期待していただけに残念な気持ちで研修に入りましたが、始まってみますと、少ない人数かつこのような状況だからこそ、親睦を深められ、絆が強く結ばれたものと考えております。

また、授業ですが、演習主体で進められ、政策立案演習をはじめとして事例演習や条例立案演習、ディベート型演習など様々なカリキュラムが用意されておりました。どの演習も大変勉強になりましたし、特に、考え方が違う複数の人と合意形成を図っていく過程は、今後、自分が業務のマネジメントを任される立場になる時（が来るかは分かりませんが…）のことを思うと、非常に勉強になりました。

次に、研修運営の所感ですが、一言で申し上げますと、色々な事があってとても大変でした…。とても書き切れないのであえて触れはしませんが、大変だったからこそ、ここに来た甲斐があったと前向きに捉えております。総務省の職員の方々の考え方を学び、同じ立場である他の特別研修生の皆様にフォローいただきながら、コロナ禍にあっても一人も欠けることなく卒業を迎えることができ、ほっとしております。

この経験を来年度以降に活かし、よりよい研修を提供できるよう準備を進めていきたいと思います。

（T・S）

（食堂前に咲いた梅の花）